

宇治交配 **パプリ娘**

ハウス雨除け栽培用

色どり彩やか、着果性に優れた中型カラーピーマン!

特 性

- ① 果実は120g前後となるカラーピーマンで、濃赤色、鮮黄色、鮮オレンジ色の3色があります。果肉は厚く食味も良好で、外観も美しいです。
- ② 未熟果はいずれも緑色で、開花後55日位から収穫できます。また従来のカラーピーマンよりも着果性に優れています。
- ③ 草勢はやや旺盛で、節間は中位となり、家庭菜園はもちろん、ハウス雨除け栽培、越冬栽培などにも適します。



栽培のポイント!

播 種

- ① 用土には市販のたねまき用土等、病気汚染のない用土を使用します。
- ② 育苗箱等にすじまきをして覆土後灌水し、乾燥防止のために新聞紙をかけて地温25~30℃で管理します。
- ③ 播種後5~7日程度で発芽してきますので発芽し始めたらすぐに新聞紙をとります。発芽後は地温を20~25℃にします。

鉢上げ(移植)

- ① 本葉が2枚のとき(播種後20日前後)に鉢上げをおこないます。鉢上げには10.5cm以上のポリポットを使用します。
- ② 鉢上げ直後は地温を高め(25℃前後)にすると活着がよくなります。

鉢上げ後の育苗管理

- ① 鉢上げ後の地温は20~25℃で管理し、生育につれて徐々に温度を下げ、定植の直前には最低地温を16℃程度にします。
- ② 徒長防止のために葉と葉が重ならないように適宜、鉢の間隔をあけます。
- ③ 育苗後半になると肥料切れになり、老化苗になりやすいので液肥を施し、予防します。

圃場の準備

- ① 保水性があり排水の良い圃場を選び、定植の1ヵ月以上前には完熟堆肥を施し、深耕しておきます。
- ② 元肥は10aあたりの成分量で窒素20kg、リン酸30kg、カリ20kgを基準とし、前作や土質によって加減します。また苦土石灰も10aあたり80~100kg施します。
- ③ 定植の1週間前までには元肥を施し、うね幅150~180cmの高うねをつくり、灌水チューブを株元付近に配置しマルチを張ります。定植の前にあらかじめマルチを張って地温をあげておくこと定植後の活着がよくなります。

定 植

- ① 定植適期の苗の大きさは一番花が開花する直前の苗です。
- ② 植え付けは2本仕立ての場合で株間25cm、4本仕立てで45cmの1条植えとします。
- ③ 1番花が着果しているような老化苗では活着不良をおこしやすいので定植

がおくれないようにします。天候などで定植がおくれ、老化苗での定植になった場合は活着をよくするために薄めの液肥を与えて活着を図ります。

敷きわら

- ① うねの上にわらを敷き、夏場の日射による地温の上がりすぎを防ぎます。

温度管理

- ① 気温は17~30℃を目標とします。高温期に30℃以上になると変形果やひび割れ果が増えるので、ハウスの換気に注意します。特に夜温が高いと着果しにくくなります。また低温期に15℃以下になると果実の先端がとがるなどの変形果が増えます。

仕立て方

- ① 本葉10枚程度になると分枝し、その後、節ごとに2本ずつ分枝していきます。分枝した2本の枝は太い枝と細い枝になるので太いほうを主枝と見立てて2~4本の主枝とします。細いほうの枝は側枝と見立てて1、2節で摘心します。なお第1分枝より下に発生する腋芽は取り除きます。

摘 果

- ① 初期から着果させると草勢が弱まるので、下から数えて3節目までの花(1~3番花)は摘花して草勢を強めます。その後4節目から着果させます。
- ② 果実は主枝にのみ着果させ、側枝についた果実は摘果します。

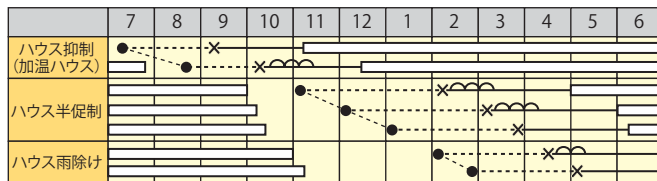
追 肥

- ① 追肥は最初に着果させた果実がゴルフボール程度の大きさになってからおこないます。その後2~3週間ごとに施します。追肥1回分の量は10aあたり窒素成分量で2~3kgです。

収 穫

- ① 通常、週2~3回収穫します。
- ② 果実の表面が9割程度、着色した時点で収穫します。高温期には収穫が遅れると障害が発生しやすいので注意します。

下記標準栽培表を参考に貴地の気候に合わせて栽培してください。



品種名	項目	草勢	草姿	早晩性	着果の多少	果型	果重	果長	果幅	果肉厚さ	果色	食味	備考
宇治交配	パプリ娘レッド	中	半開張性	早生	多		100~150g	10~12cm	5~6cm	5~6mm	緑→赤	上	着果性よく変形果が少ない、食味良好。
宇治交配	パプリ娘ゴールド	中	半開張性	早生	多		100~150g	10~12cm	5~6cm	5~6mm	緑→黄	上	
宇治交配	パプリ娘オレンジ	中	半開張性	早生	多		100~150g	10~12cm	5~6cm	5~6mm	緑→オレンジ	上	